まちが育て、まちを育てる。

みんなの図書館さんかく

みんなの図書館
さんかく
SANCACU

一般社団法人トリナス
静岡県焼津市 焼津駅前通り商店街

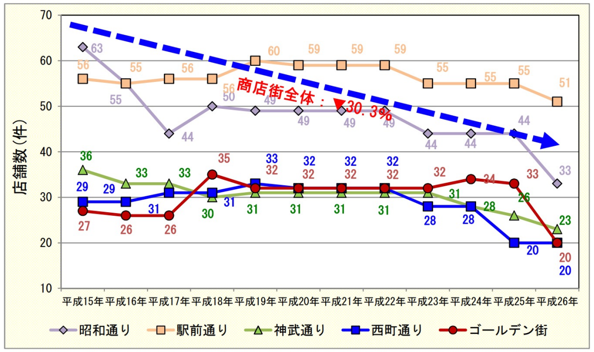
焼津駅前通り商店街の現状と課題 / さんかくがはじまるきっかけ

さんかく

［焼津駅前通り商店街の課題］

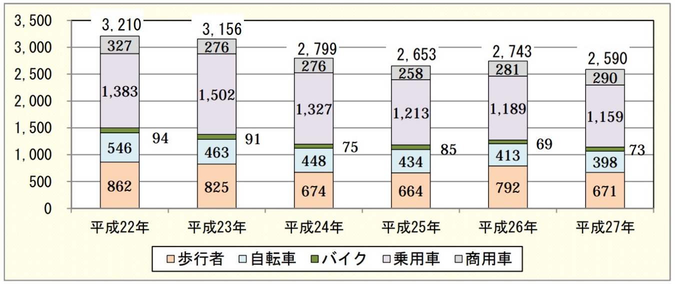
- 賑わいを見せていた商店街は、この10-15年で店舗数が減少傾向にあり、それに伴い交通量も徐々に少なくなっている。
- 店舗数と交通量の減少によって、全国の地方の商店街の状況と同じく、シャッター通り化が進展している。
- 駅前通り商店街は焼津市が指定する中心市街地エリアではあるが、高齢化率も高く、通りから外れたところでも空き家・空き地が目立つ。

図 2-10　中心市街地内の商店街における商店の推移（出典：焼津商工会議所調査）



出典：焼津市中心市街地活性化基本計画

図 2-11　駅前通りの交通量の推移（出典：焼津市調べ）【調査地点：小石川の橋の南】



出典：焼津市中心市街地活性化基本計画

画像：焼津駅前通り商店街の様子

［みんなの図書館さんかくのきっかけ］

- 同商店街内で、中高生世代の居場所施設の運営を代表土肥が活動する別法人（NPO法人わかもののまち）で業務委託を受けていた。
- 中高生の居場所活動を通じて、商店街の関係者とも関係性ができてくる中で、もっと多世代に開く場づくりに取り組みたいと考えるようになった。
- そのひとつの取り組みとして、商店街内のプレイヤーと協働し、商店街を歩行者天国にすることで子どもたちの遊び場をつくる「みんなのアソビバ」もこれまでに開催。
- そうした中、ドイツ/スウェーデンへ視察へ行くタイミングがあり、市民が参画するパブリックスペースに感銘を受け、「私設公共」を掲げた私設図書館づくりを決意する。
- 既に商店街との関係ができていたため、不動産オーナーと直接交渉することで、空き物件の賃借は比較的スムーズに進んだ。

▲中高生施設の様子

▲みんなのアソビバ

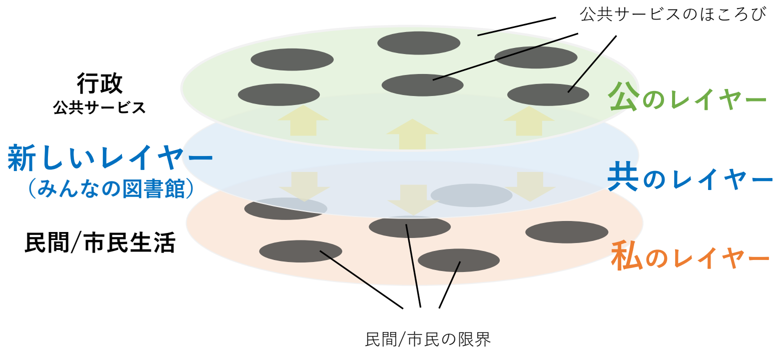
▲さんかく改修前

▲中高生施設の様子

▲みんなのアソビバ

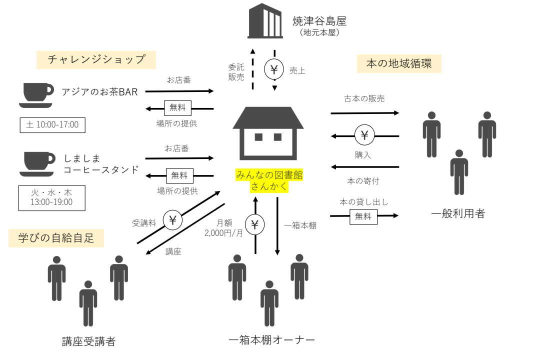
▲さんかく改修中

みんなの図書館さんかくのコンセプトと特徴



［スポンジ化する都市の「私設公共空間」の社会実験］

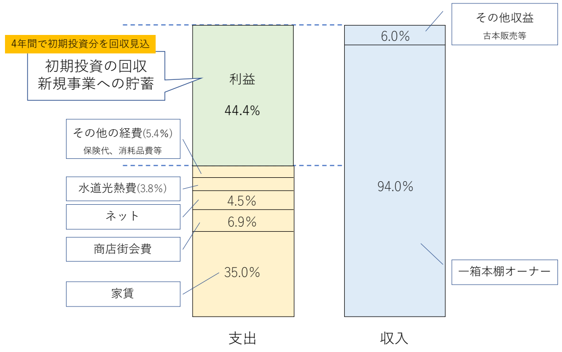
- 饗庭伸『都市をたたむ』によれば、これからの都市はコンパクトシティのように、中心市街地に都市機能が集約するのではなく、スポンジのように穴あき状態（都市のスポンジ化）になっていくことが指摘されている。
- 焼津市も同様に空き家・空き物件が増えることで、都市のスポンジ化現象が起こっている。人口減による財政縮小を踏まえれば、行政頼みの都市政策には限界があり、民間・市民主体のまちづくりが求められている。
- リノベーションまちづくりの動きも活発化しているが、その中でもさんかくの実践の大きな特徴は、パブリックスペースづくりに取り組んでいることにある。つまり、ただ物件をリノベーションしてお店として開くことではなく、市民の参画によってコモンズ（共のレイヤー）をつくりだすことを目的としている。



さんかくの外観、左側がチャレンジショップ

［みんなの図書館さんかくとは］

- みんなの図書館さんかくは、商店街内の空き物件を活用し、2020年3月に開館した。
- 「さんかく」の名の通り、みんなの参画によって運営される図書館を目指し、「一箱本棚オーナー制度」を導入した国内初の私設図書館で、完全民営・黒字経営を実現している。
- チャレンジショップを併設し、無料でスペース貸しをする代わりに本の貸し出し業務を負担してもらうことで、人件費がかからない運営を行っている。また、お店番は一箱本棚オーナーの権利であり、本棚オーナーが自主的にお店番をすることもある。



内装は静岡県産の木材を利用

一箱本棚オーナー制度

一箱本棚オーナーは、「みんなの図書館さんかく」に自分がプロデュースするマイ本棚を持つことができるオーナー制度である。オーナーは月額2,000円を支払うことで、一箱本棚オーナーになることができる。自分の趣味や活動に関する本を並べるオーナーが多い。利用者はその本を借りて、感想カードでメッセージを伝え、双方向のコミュニケーションが生まれている。さんかくには現在、55人の本棚オーナーが契約している。

けん玉の先生の本棚

星の本を置いた本棚

動物愛護活動をされている方の本棚

まちづくりの成果、エリアへの波及

［みんなの図書館さんかくの成果］

- 開館から1年で約2,800人の賑わいを生み出す拠点に成長した。
- 50人以上の本棚オーナー、曜日替わりのチャレンジショップ出店者が定期的にさんかくに通うことで、まちづくりのプレイヤーが増えた。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
開館日数（日）	12	25	4	16	24	19	20	16	21	18	22	20	20
平均利用者数（人）	13.8	15.4	16.8	11.4	10.5	9.6	13.1	10.7	10.4	12.0	11.0	10.8	11.7

- チャレンジショップ出店者が、商店街内の物件を借りる動きが出てきており、開館から１年半でネクストステップに踏み出している。
- 本棚オーナーが自主的に教室や読書会を企画することで、人が人を呼び、商店街全体の関係人口が増加した。
- 民間事業/行政事業を含め、この５年で10店舗以上が新規開店している。

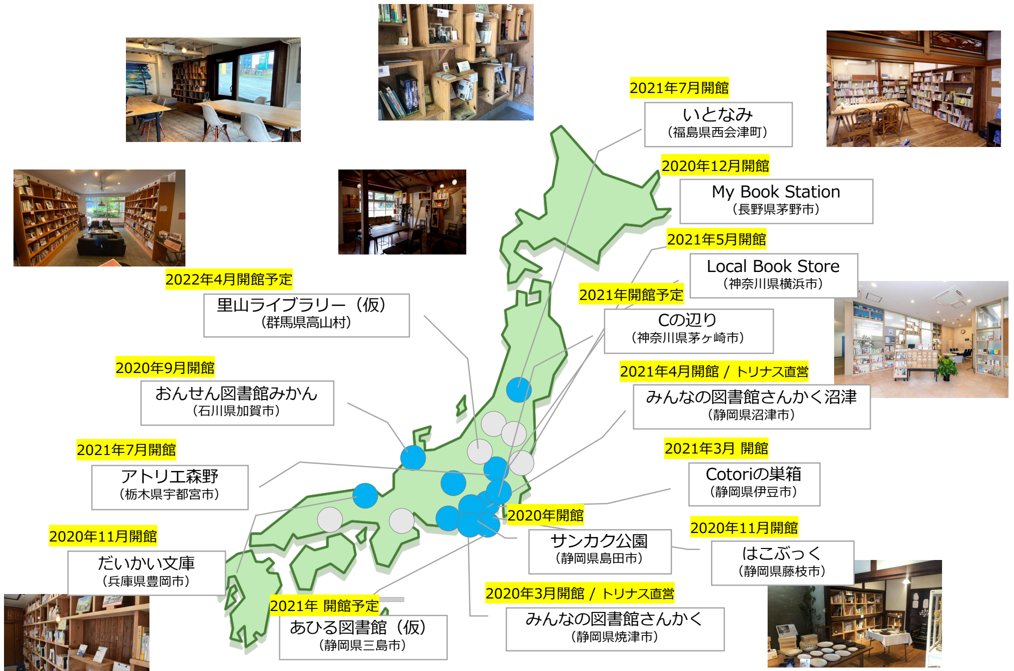
［みんなの図書館さんかくのチャレンジショップ］

月	火 水 木	金	土	日
イラスト/似顔絵	コーヒースタンド	電子楽器	日本茶スタンド	本棚オーナーによるお店番

［全国に広がる一箱本棚図書館］

- 2020年3月に「みんなの図書館さんかく」を開館してから、約1年半の間に「一箱本棚オーナー制度」を導入した姉妹館が全国18館（開館準備中のものも含む）に広がった。
- 焼津の事例を受けて、沼津信用金庫の支店跡地に私設図書館を開設したい旨の相談を受け、2021年4月には、トリナスが運営する２館目の「みんなの図書館さんかく沼津」が開館した。
- これまでに30件以上の視察を受け入れるほか、10回以上のメディア取材も受けており、今後より市内外に波及していくことが期待される。

焼津駅前エリアで5年以内に開店した店舗



全国に波及した「一箱本棚オーナー制度」を導入した私設図書館